



《園長の言葉》

令和8年度 認定子ども園竜光保育園 第735号

暦の上では秋を迎えていますが、連日こうも酷暑が続くと「秋は本当に訪れるのだろうか」と訝(いぶか)しんでしまいます。なお、7月下旬から各地で頻発している地震や豪雨によりお亡くなりになられた方々に謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された多くの皆様にお悔やみ申し上げます。被災地域の日も早い復旧・復興を心より願っています。

さて、今年も先月末まで全国高校野球選手権大会が甲子園で開かれ、智弁和歌山高校の優勝で幕を閉じました。その決勝で惜しくも敗れたのが群馬県の健大高崎高校でしたが、その最後の打者になった小原くんという選手の起用についての清々しい記事を目にしました。小原選手は、今大会唯一出場機会がなかった選手で、その最初で最後の出番が1点を追う9回2死一塁の場面で訪れたそうです。勝ちに徹するならば他の選手の起用もあったのかもしれませんが、結果は三振でゲームセット。下を向いてうなだれていた小原選手でしたが、チームメイトから『お前が最後のバッターで良かった』と声をかけられたそうです。そして監督も「小原がいなかったらこのチームはない。黙々と球を受ける姿っていうのは、本当に投手陣の心の支えになった。苦労して投手陣を支えてくれた」とチームの“黒子”に徹し続けた小原選手への感謝を述べたそうです。(「Full-Count フルカウント」8/23 配信記事より)誰を打席に送るか悩む重要な場面で監督の頭に自然と浮かんだのは、3年間ひたむきな努力を続けながら、仲間を鼓舞していた選手の姿だったのでしょうか。監督やチームメイトが「縁の下力持ち」として最後の場面に託した選手に対する思い・敬意こそが、優勝以上に大切な宝物であり集大成だったのでしょうか。「お前が最後の打者で良かった」この言葉に全てが凝縮されていると思います。高校野球のみならず学生のあらゆる大会の本質は、どこまでいっても教育の場でもあり、結果にのみ固執するのではなく、そこに至るまでのプロセスがより大切なのではないのでしょうか。

運動会の練習にも徐々に熱が入ってくる9月。勝ち負けという結果も大切ですが、それ以上に本番に至るまでのお友だちと共に頑張ってきたプロセスの大切さや達成感を、なんとなくであっても子どもたちが感じ取ってくれたらと思うばかりです。



- 9月1日(火) 竜光のんの広場(園庭開放)
- 3日(木) ダンス教室(桜・梅組)
- 9日(水) 英語教室(桜・梅組)
- 11日(金) 避難訓練
- 14日(月) 誕生会
- 15日(火) 身体測定(未満児)
- 16日(水) 身体測定(以上児)
- 〃 英語教室(桜・梅組)
- 17日(木) 体操教室(桜・梅・桃組)
- 24日(木) 合同礼拝
- 26日(土) 東谷フェスティバル(桜組)
- ☆ 10月1日(木)～2日(金) 小運動会
- 10月17日(土) 運動会

クッキング保育 ～「ナン」づくりにチャレンジ～



夏ならではの西瓜割とプール遊び

※個人情報保護等の観点により
掲載は控えさせていただきます。

おすすめ絵本のコーナー



『こんなとき、なんていう？ きもちをつたえるえほん』 監修: 皆川 泰代 絵: ひらの ゆきこ 出版社: PHP 研究所

子どもたちは知っている言葉の数が限られているので、気持ちをうまく表すことが難しく、お友だちなど周囲とトラブルになることも多々あります。そんな際に、子どもたちの「うまく言えない気持ち」をどう伝えたらいいのか、場面々に合わせた言い方の例を分かりやすく教えてくれるとても参考になる絵本です。監修の先生も著述されているように、自分の感情や状態を言語化する力は、イライラを抑える等感情の制御力や他者の感情理解にもつながり、コミュニケーション能力も高まってきます。特に、小学校入学前を控えている年長組のお子様がいるご家庭におすすめしたい一冊です。



『はじめてえほん あっぷっぷーちゃん』 作: おおの たろう 出版社: ポプラ社

「あかちゃんあかちゃん」シリーズが大人気の作家の作品で、読むと思わず「あっぷっぷ」をしたくなり、ご家庭でも園でも、楽しい時間が生まれる絵本です。絵本の中の変顔を読む側が真似すると、子どもたちも間違いなく「ぷぷぷ！」と笑顔がこぼれる一冊です

